

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

2021年7月25日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「何が拠りどころですか？」

—すばらしい希望—

テキスト：第2ペテロの手紙1章16～18節

はじめに

- ・7月23日、「東京オリンピック2020」が開幕しました。本来ならば、輝かしいスポーツの祭典で、日本はじめ世界中が盛り上がるはずですが、今回は、かなり異なっています。その理由は、コロナ・パンデミックの真っ最中の開催であるからです。おそらく前代未聞でしょう。
- ・皆さんはよくご存知のように、東京都は4度目の「緊急事態宣言」を発令中です。そして大阪も「まん延防止重点措置」の発令が延長されています。それによって私たちの精神的、経済的損失は測り知れないものです。このような中で、「東京オリンピック2020」は始まりました。
- ・今回一番大きな問題であったのは、このコロナ禍でオリンピックが開催されるかどうかでした。選手たちはオリンピックに目標を置き、一生懸命研鑽を積んできました。受け入れ側の関係施設、ホテル、従業員たちも、果たしてコロナ禍で開催できるかどうかという不安がありました。
- ・その不安はオリンピック開催という目標が鮮明ではなく、はっきり見えなかったからです。コロナ伝染病に対して、人類は本当に無力であると痛感します。前方にあるはずの目標が定まらず、はっきりしないことは不安材料でした。
- ・しかし、神にある希望はそのようなものではありません。神が与えてくださる人生の目標は、天の御国に入ることです。この世とは全く違い、罪はなく、神の平和が永遠に続く神の国です。そこに向かって歩き、やがて神の国に入ることが目標です。
- ・希望のある目標は、試練下にあったユダヤ人クリスチャンを励まし、希望に向かう生きる力を与えました。ペテロはここまで、希望のメッセージを書き送ってきました。今日のテキストで、その希望がどれほど確かなものであるかと説いたのでした。
- ・皆さん。確かな希望を持って歩む人(キリスト者)は、じつに幸いな人です。今日は、イエス・キリストにある希望がどんなに素晴らしいものか、ご一緒に考えてみましょう。 2点

大切なポイント

1. すばらしい希望に生きる聖徒

1:16 私たちはあなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせましたが、それは、巧みな作り話によったものではありません。私たちは、キリストの威光の目撃者として伝えたのです。

- ・この聖句には、4つのキーワードがあります。

1) 主イエス・キリストの力

- ・ペテロは、「私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせた」とあります。彼はこの手紙のはじめでこう述べました。

1:3 私たちをご自身の栄光と榮譽によって召してくださった神を、私たちが知ったことにより、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらすすべてのものを、私たちに与えました。

- ・すなわち、ペテロはこの方のうちに委ねられている神としての権威と力について、証ししてきました。

2) 「来臨」

「私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせた」

- ・原語では「現れ」という名詞です。イエスは十字架のみ苦しみを通して、贖いのみわざを完了してくださいました。そして再び来ると約束してくださいました。その時は、御国を完成させるという約束を、弟子たちに残して行かれました。それ以来、キリストの教会はやがて主イエスとお会いする日が来るといふ信仰を持っていました。そして、その希望を言い表してきました。ペテロはこの希望を語りました。

1:16 私たちはあなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせましたが、

3) 「作り話し」

1:16 それは、巧みな作り話によったものではありません。

- ・「作り話し」（ギリシャ語：mythos, ミトス）とは、「寓話」のことです。当時のユダヤ人社会で、文学類型に「寓話」というジャンルがありました。寓話とは教訓や諷刺によるたとえ話で、動物を擬人化したものが多いです。それによってある真理を伝えるのが目的です。
- ・最近では、C.S. ルイスの「ナルニア国物語」が上げられるでしょう。その文学作品の価値が否定される必要はありません。それもまた立派な文学作品で、それも立派な真理の提示の仕方であります。
- ・しかし、ペテロは「神から委ねられた福音は、そういう寓話や童話と混同され

てはならない」と言うのです。希望の福音を、人間の理解に合うように引き下げてはならない、ということです。ペテロはこれまで語り伝えてきたメッセージは、天地の創造主である神からのものであると述べました。

4) 威光の目撃者

1 : 1 6 私たちは、キリストの**威光の目撃者**として伝えたのです。

- ・イエスの弟子たちは主イエスと過ごした日々は、主の愛と栄光の現れを仰ぎ見る歩みでありました。ヨハネ福音書1章では次のように書かれています。

1:16 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。

- ・ペテロはイエスの近くで接して、「**私たちはキリストの威光の目撃者**」と述べました。イエスの弟子であったペテロは、主イエスと公生涯をともにし、十字架と復活の証人でした。彼は、神が救いを成就してくださったことを確信しました。そして希望を与えてくださったことも確信しました。**それは神の威光の目撃者であったからです。**
- ・イエスにある罪の赦し、復活といういのちある希望です。人生は決して死で終わるものではありません。いいえ、永遠の希望が与えられました。もし、いのちの希望がなければ、世の中、あまりに不条理なことが多すぎます。しかし神はやがて来られ、ご自分の国を建て上げてくださいます。
- ・主を信じ、誠実に生きる者たちが必ず報われる時が来るという希望があります。それは決して、「寓話」という文学形式において作られた概念ではありません。いいえ、自分の目で見、自分の耳で聴き、手で触れることのできるものとして示されたものであると、主の弟子たちは証しました。

第一ヨハネの手紙

1:1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、自分の目を見たもの、じっと見つめ、自分の手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて。

1:2 このいのちが現れました。御父とともにあり、私たちに現れたこの永遠のいのちを、私たちは見たので証して、あなたがたに伝えます。

- ・ここに、初代教会時代の聖徒たちが、すばらしい希望に生きた姿がありました。

2. 変貌山での出来事

1:17 この方が父なる神から誉れと栄光を受けられたとき、厳かな栄光の中から、このような御声がありました。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」

1:18 私たちは聖なる山で主とともにいたので、天からかかったこの御声を

自分で聞きました。

1) 変貌山での祝福

- ・ペテロは、自分たちが経験した「変貌山」の出来事を述べました。

マタイ福音書 17章

17:1 それから六日目に、イエスはペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。

17:2 すると、弟子たちの目の前でその御姿が変わった。顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった。

17:3 そして、見よ、モーセとエリヤが彼らの前に現れて、イエスと語り合っていた。

17:4 そこでペテロがイエスに言った。「主よ、私たちがここにいることはすばらしいことです。よろしければ、私がここに幕屋を三つ造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」

17:5 彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲が彼らをおおった。すると見よ、雲の中から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け」という声がした。

17:6 弟子たちはこれを聞いて、ひれ伏した。そして非常に恐れた。

17:7 するとイエスが近づいて彼らに触れ、「起きなさい。恐れることはない」と言われた。

17:8 彼らが目を上げると、イエス一人のほかには、だれも見えなかった。

- ・主イエスの公生涯を二つに分けることが許されるならば、前期はガリラヤ地方を中心にした宣教でした。後期は十字架を目指してエルサレムに向かった旅路でした。前期において、イエスは御国の福音を説き明かし、弟子たちにご自分の栄光を現されました。この前期の方が、時間的には圧倒的に長いものでした。それは彼らがやがて目撃証人となり、証しをするためでした。

- ・前期の宣教が終わり、十字架に向けて新たに歩み出すとき、主イエスは3人の弟子(ペテロ、ヤコブ、ヨハネ)たちに現れ、ご自分について証しされました。ペテロはそのことに触れています。もう一度、聖句をお読みしましょう。

1:16 私たちはあなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせましたが、それは、巧みな作り話によったものではありません。私たちは、キリストの威光の目撃者として伝えたのです。

1:17 この方が父なる神から誉れと栄光を受けられたとき、厳かな栄光の中から、このような御声がありました。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」

1:18 私たちは聖なる山で主とともにいたので、天からかかったこの御声を自

分で聞きました。

- とくに私が心を打たれたことばは次です。
 - 1:17 「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」
- イエスがバプテスマのヨハネからヨルダン川で洗礼を受けられたとき、次のようなことがありました。マルコ福音書1章
 - 1:9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレからやって来て、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けられた。
 - 1:10 イエスは、水の中から上がるとすぐに、天が裂けて御霊が鳩のようにご自分に降って来るのをご覧になった。
 - 1:11 すると天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」
- じつはこのことばは、旧約聖書のメシア預言と関わりがあります。
 - 詩篇2篇
 - 2:6 「わたしがわたしの王を立てたのだ。わたしの聖なる山シオンに。」
 - 2:7 「私は【主】の定めについて語ろう。主は私に言われた。『あなたはわたしの子。わたしが今日あなたを生んだ。』
 - イザヤ書42章
 - 42:1 「見よ。わたしが支えるわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々にさばきを行う。
- 主の弟子たちが幻の中で聞いたことば「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」は、このお方こそ聖書が預言してきたメシア、御国を治め、民を贖うお方であるということを証言してきました。

2) ペテロの証言

ペテロは、このように述べました。

1:18 私たちは聖なる山で主とともにいたので、天からかかったこの御声を自分で聞きました。

- つまり、イエス・キリストのうちに委ねられたミニストリーは、確かに神によって語られた預言のことばに基づいていることです。人間が考えだした寓話ではありません。自分たちが、実際に目で見、耳で聴き、手で触った事実に基づいています。それが確かな根拠に基づいた希望であるからこそ、ペテロは確信を持って語ることができると、述べました。
- よく知られた「ことわざ」に、「百聞は一見に如かず」(Seeing Is Believing) というものがあります。自分の目を見たもの、じっと見、また手で触ったものに基づく経験以上に確信をもって語れることはありません。

- いかがでしょうか。 私たちも自分の祈りが聞かれたという経験があれば、それはげましと力となります。病気が癒されたという経験があれば、それが励ましと力になります。本当に神がそこにおられ、助けてくださったという経験は、それが励ましと力となります。神にある貴重な経験は、かけがえのない励ましと力です。確かに、自分が経験したことには力があります。

{例 話}

- 私も神にあって、さまざまな経験をさせていただく特権に与ってきました。私のこれまでの生涯で忘れることができない経験に、共産圏伝道があります。今の若い方がたには、ピーンと来ないことかも知れません。今の時代で言えば、北朝鮮、ミャンマー、アフガニスタン等で起こっている事実です。
- 私の場合は、旧東ヨーロッパでした。私はドイツから車で東ヨーロッパの国々に入りました。当時、これらの国々は神を認めない共産主義、社会主義、独裁主義というイデオロギーが支配していました。ロシア、ルーマニア、ハンガリー、チェコスロバキア、ユーゴスラビア（現在は存在しない）、その他の国々でした。
- 神はこれらの国々に入り、聖徒たちが苦しみの中で生きる姿を私に見せてくださいました。また大きな迫害を受けたキリストの伝道者にも、会わせてくださいました。彼らは、使徒の働き時代の「生き証人」（今はその大多数は召天された）でした。
- 当時、これらの国々では霊のリバイバルが起こっていました。忘れられない思い出の一つは、シベリアで86人に水の洗礼を施した時でした。また彼らが集まった会堂は人々で一杯、窓の外にまで人が溢れていました。そこで私は著しい神のわざを見させていただきました。苦しみの中で、生きて働いてくださる神を経験しました。
- これらの私の経験は、まさしく私が見たこと、聞いたこと、経験したことでした。ですから、私にとって彼らの証しが励ましと力となりました。
- そこで学んだことは、聖書のみことばでした。
- **ローマ人への手紙10章13節**
10:13 「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。
神に助けを求める人は救われるということです。
- **詩篇37篇**
37:24 その人は転んでも倒れ伏すことはない。主がその人の腕を支えておられるからだ。
- 神のみことばには、確かに権威があり、励ましと力があります。ペテロは、
1:16 私たちは、キリストの威光の目撃者として伝えたのです。」

と述べました。彼は生き証人でありました。

・ここで大切なことを覚えましょう。3点

① 神にある恵みの経験は貴重な宝である。

主から励ましと力を受けるからです。

② 生きた証しの根拠となる。

宣教はそこからは始まります。初代教会時代のキリストの福音宣教は、そこから始まりました。

しかし、それだけでは十分とは言えません。

③ 聖徒はみことばの確かさによって支えられる

神のみことばこそ、私たちの拠りどころとすべきものであるからです。

ま と め

主 題：「何が拠りどころですか？」

—すばらしい希望—

・主は今日も、私たちにお語りくださいました。ペテロは私たちの「拠りどころ」はどこにあるか、その目標と希望について語ってくれました。では、私たちど生きるべきでしょうか？

1. 主イエス・キリストの希望に生きる

1:16 私たちはあなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせましたが、それは、巧みな作り話によったものではありません。私たちは、キリストの威光の目撃者として伝えたのです。

2. 歩み（経験）はみことばによって守られる

37:24 その人は転んでも倒れ伏すことはない。主がその人の腕を支えておられるからだ。詩篇

*God bless you!